２１世紀ＣＯＥ「京都大学化学連携研究教育拠点」外国人講演会　開催報告書

（理学研究科）林　民生

研究集会名：理学研究科化学専攻　有機化学セミナー

演者：Dr. Stéphane Bellemin-Laponnaz

Université Louis Pasteur Strasbourg, France（ルイ・パスツール大学，フランス）

演題：Modular Design of Tripodal and *N*-Heterocyclic Carbene Ligands

場所：京都大学大学院理学研究科化学専攻　理学部 2 号館第 3 講義室（130 号室）

日程：2006 年 3 月 9 日　16:30-18:30

総参加者概数：約 25 名

講演内容：

Stephane Bellemin-Laponnaz 博士は，新規光学活性配位子の設計およびそれら配位子の遷移金属触媒を用いた不斉合成への応用に関する研究を行なっている，有機合成化学・有機金属化学の分野における若手研究者である．今回は，C_3 対称なトリスオキサゾリン配位子のデザインと合成について示し，これを用いた触媒的不斉合成の例についての講演を行なった．とくに，今までによく知られているビスオキサゾリン配位子との比較を中心に据え，本配位子の第３のオキサゾリン部位がいかに重要であるかを，銅，パラジウム，亜鉛，およびスカンジウム触媒によるいくつかの不斉反応において実例を持って示した．また，講演の後半では，新規カルベンーオキサゾリン配位子についても触れ，この配位子を用いたロジウム触媒によるケトンの不斉ヒドロシリル化反応の結果についても言及した．特筆すべきは，この触媒はジアルキルケトンに対する不斉認識能が高く，これまでに知られている触媒系をしのぐ結果を得ることに成功している．